

経営比較分析表（令和元年度決算）

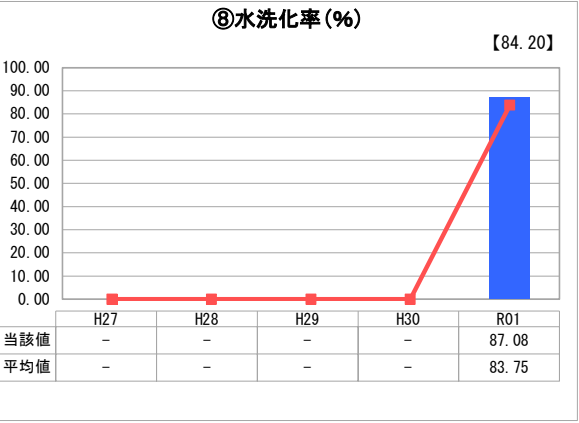
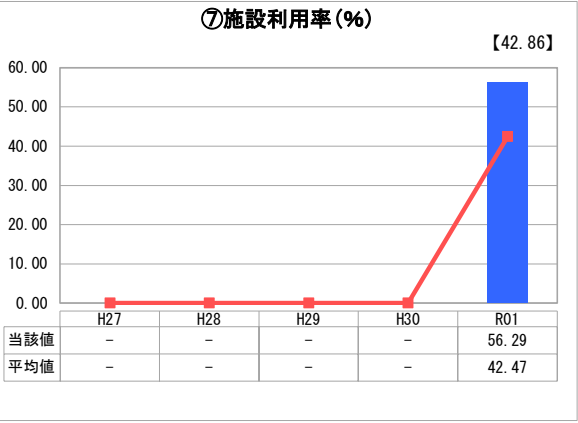
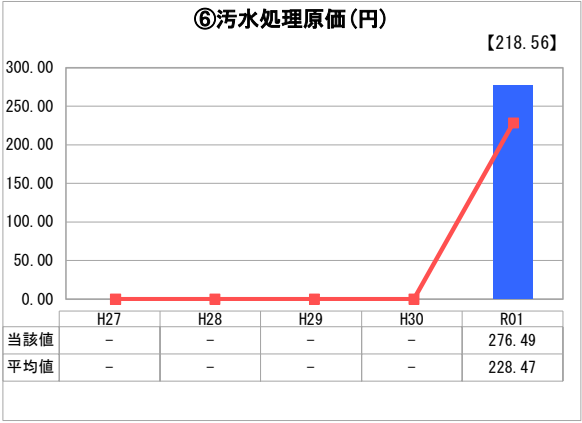
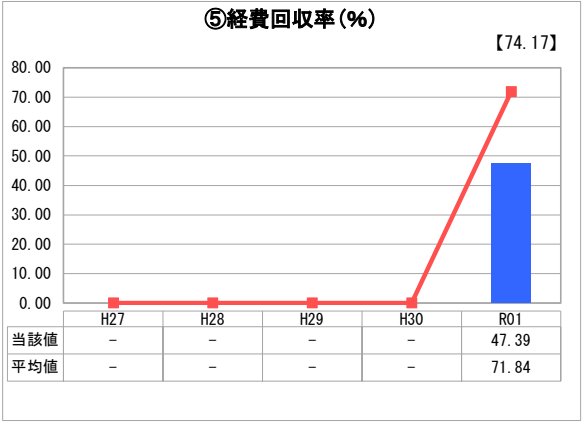
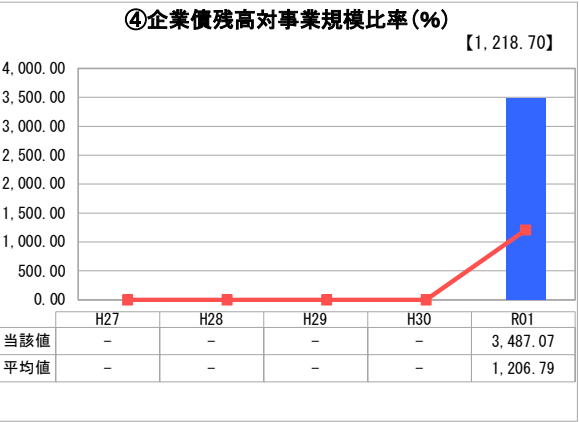
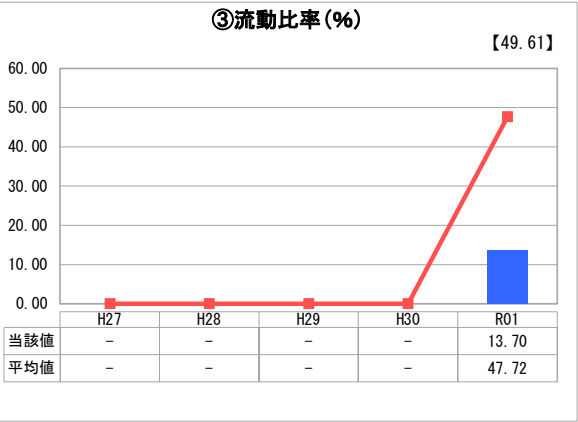
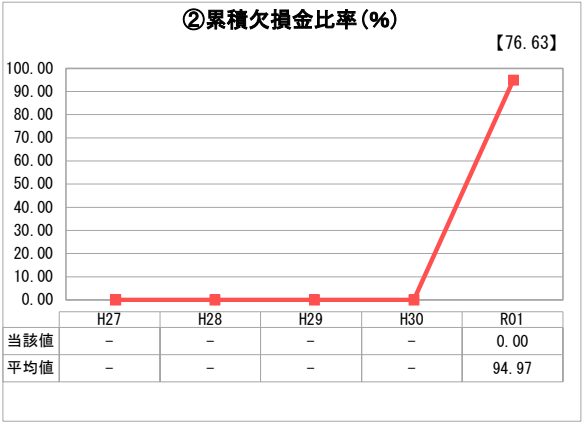
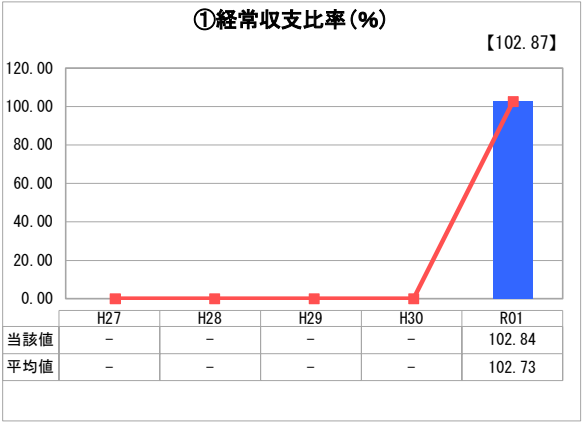
石川県 中能登町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	50.81	91.53	95.97	2,750

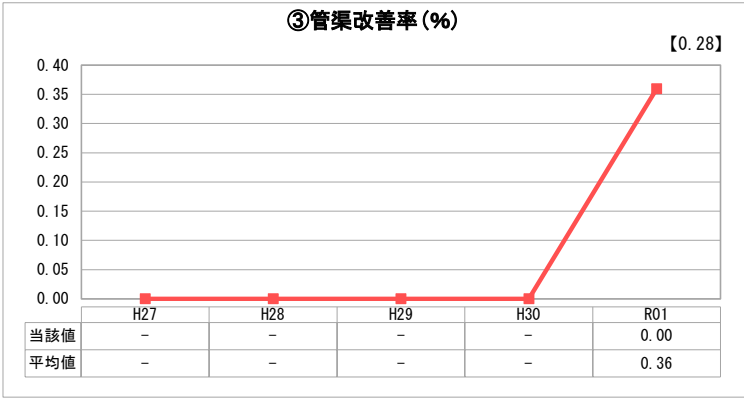
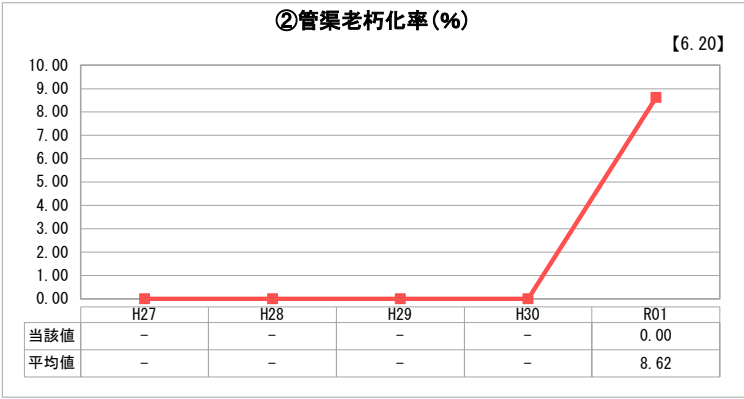
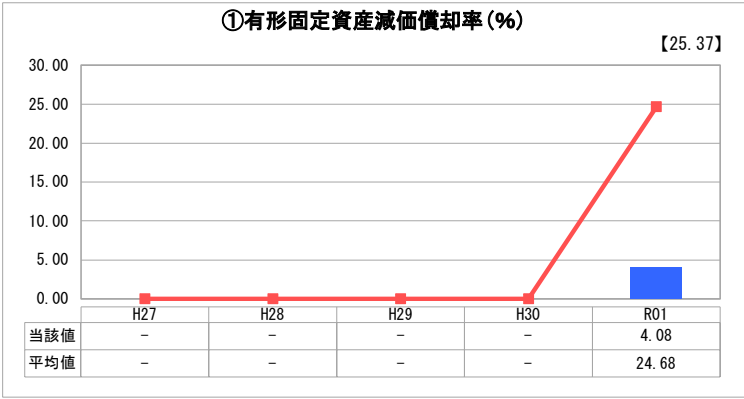
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,863	89.45	199.70
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
16,276	7.07	2,302.12

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
令和元年度は法適用初年度であり、当該指標は100%以上となっているが、経常収益には、本来使用料で賄わなければならない基準外繰入金も含まれていることから、今後、基準外繰入金を減少させる必要がある。

③流動比率
類似団体と比較して低い状況となっており、流動負債の大半を占める企業債の償還金に対し、不足する財源を一般会計繰入金や下水道事業資本費平準化債等で補う状況となっている。

④企業債残高対事業規模比率
これまで急速な整備を進めてきたことにより多額の企業債残高を抱えている状況であるが、現在、償還のピークをむかえており、後は減少していく見込みである。

⑤経費回収率
当該指標は47.39%と100%を大きく下回っており、類似団体と比較してもかなり低い状況となっている。

⑥汚水処理原価
類似団体と比較して高い状況となっていることから、水洗化率の向上と維持管理費の削減による経営改善が必要である。

⑦施設利用率
類似団体と比較して高い状況となっているが、今後の汚水処理人口の減少を踏まえ、適切な施設規模となるよう統廃合事業を進めていく。

2. 老朽化の状況について

処理施設については統廃合事業や改築更新事業を計画的に進めてきたことにより、老朽化した資産は少ない状況である。

また、管渠については耐用年数に近いものはない状況である。

全体総括

これまでの整備事業に係る莫大な企業債残高を抱えていることで、償還金が支出の大部分を占め、経営を圧迫している状況となっている。

このため、使用料の改定による収益の増収と包括的民間委託の導入などによる維持管理費の縮減に加え、計画的な建設改良事業による減価償却費の縮減を行うことで経営改善を図ることとしている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。